

	評価計画				自己評価				学校関係者評価	改善計画		
	中期経営目標	短期経営目標	達成のための方策	評価指標	目標値%	アンケート				結果と課題の説明	コメント	改善策
						教職員	生徒	保護者	評価			
1		授業の質の充実	授業公開、研究協議の実施	授業公開、研究協議ができ、授業改善につながったと考える教員の割合	80	100			A	校内では少なかったが、市内の学校での授業、県教研の授業に参加し授業改善に繋げることができた。		
2	生徒一人ひとりの学力の向上	家庭学習の充実	家勉・英語家勉ノートの実施 家庭学習時間の確保	家庭学習が1時間以上できている生徒の割合	70	22	87	55	C	家勉・英語家勉に取り組んでいる。生徒は1時間以上していると答えているが、教員と保護者は低い。	自学でなく各教科の宿題を増やす。家庭学習には家庭での保護者の協力が欠かせない。習慣化が大切である。	学力調査結果から30分から1時間の学習時間の生徒が多い。目標時間1時間以上を決めて生徒に伝える。
3		ICTを活用した取組の推進	タブレットドリルの活用 各教科等での活用	ICTを活用した授業を受けている生徒の割合。	70	80	37	57	C	活用は増えてきてはいるが、毎日家庭に持ち帰ることも検討が必要である。		現1年生が週1回程度の活用の割合が多い。週3回以上から毎日の活用ができるような方法を考えた。
4		計画的な進路指導の実践	学級活動での進路学習、進路面談、進路希望調査の計画的な実施	年間指導計画に従って、進路指導ができたと考える割合	80	100	74	86	A	計画に従って進路指導ができている。家庭でも親子で話をしている。入試制度が変わることもあり、1年生の時から、高校についての情報を知っていく必要がある	将来、組織の中で働いていくには、コミュニケーション力が必要である。家庭では会話が減っており、学校でコミュニケーション能力の育成が必要である。	島根県の入試制度が大きく変わってくるので、進路指導の年間の記録を取りながら、年間指導計画の確認を行い、見直しをする。
5	自己実現を図るキャリア教育の推進	体験的な学習の充実	地域に関わる学習の実施 ふるさと教育の実施 探究の過程を意識した指導	探究の過程を取り込んだ学習のできた割合	80	80	79		A	県学力調査の結果から、各学年探求的学習に取り組んでいる肯定的回答は、約80%である。	ふるさと教育や体験活動は続けてほしい。学習面につながるよ。若者が金城に帰ってくることを望む。	県教委からふるさと教育の時間の減が示されたが、必要な活動は行ってきたい。
6		学級活動・生徒会活動の活性化	常時活動や清掃活動の充実	常時活動や清掃がきちんとできている割合	80	100	95		A	それぞれが責任をもって学校や学級の自分の役割を果たしている。		
7		基本的な生活習慣の確立	あいさつ、返事、くつろぎの呼びかけ	あいさつ、返事、くつろぎができていると考える割合	80	77	97	81	B	生徒会選挙の立会演説会で挨拶の大切さが訴えられていた。挨拶がしっかりでき、明るく気持ちの良い学校になるとよい。	中学生が地域でいきいきと明るい挨拶をしてくれるいい場面がある。昔に比べると中学生が自分の考えが話せる。	生徒会活動で挨拶運動をしているが、短いサイクルで振り返りを行わせ、新しい取組を考えて取り組んでいく。
8	生徒一人一人を大切にする生徒指導・特別支援教育の推進	主体性を育てる常態的・先行的生徒指導の推進	生徒指導の実践上の4視点(①自己存在感の感受、②共感的な人間関係の育成、③自己決定の場の提供、④安心・安全な風土の醸成)での全教育活動での取組	左の4視点を取りこんだ授業、行事、学級経営、部活に取り組んだと考える割合	80	100	91		A	全職員で生徒の自己有用感の醸成に取り組んできた。家庭にもPTA総会でお願いをした。2月に返ってくる県学力調査で結果を確認したい。	学力調査結果から自己有用感に関する質問の肯定的回答が10~20%上昇し、取り組みの成果がうかがえた。今後、地域に関わる活動や部活動でもしっかりほめて認めてやるとよいと思う。	
9		多様な学びの場における教育環境の充実	特別な支援が必要な生徒、不登校・不登校傾向の生徒、1人1人の生徒に応じた対応	1人1人の生徒への対応ができていると考える割合	80	100	89	52	A	担任一人では対応がなかなか難しい。組織での対応が必要である。関係機関も交えたケース会議も必要である。	不登校や不登校傾向の生徒については、原因に対する対応が必要である。	支援が必要な生徒には、担任から家庭訪問や電話でこまめに情報提供を行い、保護者と共通の認識で取り組みを行う。

10	ふるさとに誇りを持ち、大切にする生徒の育成	地域の教育資源を活用したふるさと教育の推進	まちづくりセンターと連携した体験活動の実施	体験を通して金城町が好きになり、金城町の良さや課題が分かった生徒の割合	80	100	90	67	A	計画通りにふるさと教育を実施し、成果を上げることができた。来年度も継続していきたい。	まちづくりセンターの活動では、生徒は一生懸命に取り組んだ。生徒が学んだことから各地域への提案があると良い。	まち探検では、各地区について学んだあと、課題について対応策を考えさせる。学習発表会でまとめて展示させる。
11		地域行事・地域ボランティアへの参加	地域行事・地域ボランティアへの参加	金城町のために何か貢献してみたいと考える生徒の割合	80	100	74	48	B	1年生全員が甚左衛門W,3年生13名がさざんか祭りのボランティアとして参加してくれた。各まちづくりセンターの行事等にも多く参加してくれると良い。	子どもが小さいときには親子活動があるが、中学生になると親が関わっていない。親を巻き込んだ活動や親への周知が必要である。	中学校の活動だけでなく、地域の活動についてもすぐるを活用して保護者に知らせていく。
12	家庭・地域との連携	学校評議員会、民生委員連絡会等地域との連携	学校評議員会、民生委員連絡会の実施	学校、それぞれの機関が連携できている考える割合	80	100			A	地域の方にお世話になり連携して多くの成果を上げることができた。		
13		各種たより、HPによる情報発信	学校・学年便り等の定期的な発行 学校HPの定期的な更新 メール配信による情報提供	学校の活動内容や様子がわかったり、適切な時期に情報が得られたと考える割合	80	100	90	87	A	保護者の皆さんから、アンケートの記述欄で意見をいただいたものには、校内で検討して改善していきたい。	学校だよりはカラー版を送付してもらい、学校の様子がよく分かった。すぐるは便利で効果的に活用してほしい。	

0~10ポイントマイナス
11ポイント以上マイナス